



たがじょう転入組

- 転入者による転入者のあつまり -

昨年7月にたがさぼで開催した、転入者を対象とした講座参加者の有志で結成した「たがじょう転入組」。先日、多賀城のオススメスポットを教えてもらうワークショップを企画しました。

なぜこの企画が生まれたのですか？

「転入者同士では知っている情報が限られているので、長く住んでいる方から役立つ情報をいただこう！と思ったからです」

オススメスポット

- ・工場夜景がきれい
- ・ビアサミットが楽しい
- ・美味しいラーメン屋のこと
- ・などなど……

ワークショップをやってみて、いかがでしたか？

「多賀城のオススメや、参加した方が多賀城に住みはじめた頃の話など、今まで知らなかったことをたくさん聞きました。情報にあった工場の夜景は本当にきれいでした」

今後の展開は？

「たがさぼで展示してみるなど、楽しみながら活用したいと思っています。今後もみんなで気軽に集まりたいと思っているので、転入してきて友達が欲しい方や、多賀城をもっと知りたい方はご参加ください！」

※活動の様子は随時、たがさぼのブログで発信していきます！

転入して2年以内の方が対象だった昨年の講座の様子。この時にもいろいろなアイデアが出ました。



「たがじょう転入組」での集まりの様子。和気あいあい楽しそう！



ヒント from “たがさぼPress”

たがさぼのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

●「見えない」ってどんな感じだろう？ 2016年12月1日(木)掲載
視覚障がいの方の「見えない日常」の体験イベントを開催している「NPO法人ダイアログ・イン・ザ・ダーク」。体験を通して気づいてほしいことは？

●ふるさと納税という名の寄付金制度 2016年12月13日(火)掲載
応援したい自治体を選んで寄付ができる「ふるさと納税」。そのしくみを活用することで、災害に見舞われた地域の力になることができます。

●寄付の方法、さまざま 2016年12月15日(木)掲載
指定されたメニューや商品をレストランやコンビニで購入すると、代金のうち20円が途上国の子どものための学校給食になる「TABLE FOR TWOプログラム」をご紹介します。

“たがさぼPress”とは？

たがさぼスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぼPressへ！*ケータイ、スマホからもご覧いただけます。



たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

“55歳からセカンドライフ講座”

自分の興味・関心、特技や仕事の経験を活かした、地域や社会への関わり方が学べる講座。ゲストによる多賀城での活動事例の紹介もあります。退職後に何をしようか悩んでいる方、自分にどんな活動が向いているのか知りたい方におすすめです。

日時	2017年2月25日(土) 午前9時30分～12時
会場	多賀城市市民活動サポートセンター
対象	退職後のことを考えたい55歳以上の方
定員	15名(先着順/要事前申込)
参加費	500円
申込み	多賀城市市民活動サポートセンター窓口または電話にて
問合せ	022-368-7745 (多賀城市市民活動サポートセンター)

参加者募集!



～大代地区の場合～ 地区運営の秘けつは、住民のつながり力

大代地区で、明るく住みよいふるさとづくりに取り組んでいる「大代地区コミュニティ推進協議会」(以下、協議会)。これまで取り組んできた事業に加え、2014(平成26)年度からは大代地区公民館の指定管理も担っています。協議会について、事務局の及川清人さんにお話を伺いました。

協議会が誕生した経緯を教えてください。

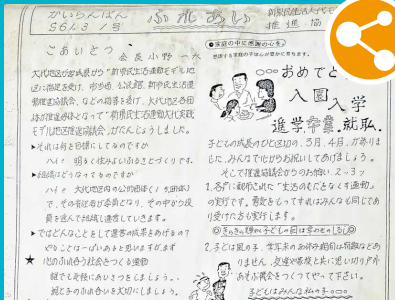
1986(昭和61)年3月の「新県民生活運動大代実践モデル地区推進協議会」の設立がはじまりです。大代地区が宮城県からモデル地区に指定されたことがきっかけとなり、町内会及び防犯協会・交通安全協会など地区の15団体が推進する形で誕生しました。指定終了後も活動を続け、1994(平成6)年5月に「大代地区コミュニティ推進協議会」に名称を変更して今に至っています。



協議会関係図

協議会の運営はどのように行っていますか。

1986(昭和61)年3月に発行された、広報誌「ふれあい」第1号。今年1月の発行で、367号になります。



大代地区の5つの町内会から選出された役員が中心となって運営していますが、事業の企画・実施にあたっては住民のみさんにお手伝いいただいています。大代地区はもともと住民同士のつながりが強く、運動会などは地区全体で行っていました。このように町内会の枠を越えて取り組むことで、住民同士の交流を図るとともに、住民が大代地区のために活動できる場をつくっています。長く続いている行事もありますが、住民の意見や必要性なども踏まえて企画を立て、これまで参加したことのない人にも参加してもらえるようにしています。

大代地区公民館の指定管理事業に取り組んで、地区で変わったことはありますか。

子どもたちが放課後や長期休業の期間に安全に遊べる場が必要ということで、公民館の体育館や視聴覚室を「集いの広場」として自由に遊べる時間を設定し、多くの子どもたちが公民館に遊びに来るようになりました。親御さんも、公民館なら遊んでも安心と思っていただけているようです。また、協議会や公民館の行事に協力していただける方が増えています。地区の人だけでなく、最近では公民館を利用している地区外在住の方からも準備などのお手伝いをいただいています。



『真山運河・大代周辺清掃』は、長年継続しており、表彰を受けていることもあります。

今後の運営にあたっての課題を教えてください。

『秋まつり』の様子。アトラクションに列ができるほど、子どもたちにとって楽しい行事です。綿あめなどの出店もありました。



役員の担い手不足が課題です。任期は2年ですが継続して役員を務める方も多く、結果として年齢層も高くなってきています。10年後、さらにその後を考えると世代交代も図りたいのですが、若い世代は共働きも多いことから、なり手が少ないのが現状です。課題もありますが、大代地区のよいところである住民同士のつながりを活かして、地区の運営にあたっていきたいと思います。

